

第275回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成23年2月28日（月）午前11時00分より
- 2 開催場所 テレビ新潟放送網本社会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員7人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
笠井 明	委員	吉原 浩	委員
碓井 真史	委員	大久保 千春	委員
田村 明子	委員		

会社側出席者

専務取締役（報道・制作・国際担当）	奥野富士郎
常務取締役（営業・事業・編成担当）	永原 良太
編成局長 兼 放送番組審議会事務局長	駒形 正明
報道制作局長	竹石 尚史
報道制作局次長 兼 報道制作部長	稲田 裕之
編成部長	中川 保彦
合評番組ディレクター	小林 直子
事務局	海津 智洋 紫竹 聡子 水野 明子

4 議 題

1) 番組合評

「～オーストリアからスキーが伝わって100年～

スキーの新潟これからの100年」

〔放送 : 2011年2月5日(土) 10:30～11:25〕

(説明 : 番組ディレクター 小林 直子)

2) 会社報告

①BPO 放送人権委員会決定

「大学病院教授からの訴え」について。

(報告 : 編成局長・番組審議会事務局長 駒形 正明)

③1月の視聴者の意見。 (報告 : 視聴者相談室長 海津 智洋)

④講じた措置、公表など定例の報告等。(報告 : 番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要 (委員の意見)

会社側から、この番組は新潟県スキー観光産業振興協議会が「スキーが日本に伝わって100年」という節目の年に、100年という歴史の“印”を残す番組を作ろうということで企画された番組であること。スキーのこれから100年を考えるにあたって、新潟県内のスキー産業に一生懸命に取り組んでいる人たちはもとより、スキーをしない人でも新潟県民ならば他人事ではないと感じてもらえるような、広く県民の皆さんに考えてもらえてスキー振興に繋がっていけように願って制作した番組であ

ることなどを報告した。

●スキーの 100 年の歴史とこれからの 100 年ということで番組の流れが綺麗でわかりやすいと思った。

●須山アナのコメント「今こそじっくり戦略を練り、スキーを不動のレジャーに育てていく最大のチャンス」は、まさにその通りだと思った。「進化しないものは取り残されていく」もその通りだと思った。

●スキーが日本に伝えられて 100 年。考える機会としては格好の節目であり、バブルの後遺症もあるスキー産業の貴重な映像資料価値もあり、いろいろ考えさせられた良い番組だと思った。

●ヨーロッパの映像が魅力的過ぎたので、その映像美に引っ張られてしまい日本のスキー場の状況を見てどうしてあのようになれなかったのかと思った。

●英語圏の人達が親子で日本のスキー場に来てくれているのを見て、日本のスキー場のどこが気に入っているか聞いてみたかった。

●海外の人が来てくれるようになるのも大切なことだけど、国内の人がもっと泊りがけでゆっくりスキーに行こうと思ってくれることが一番良いと思うので、見ている側がスキーに行ってみたくなるような仕掛けや工夫がもっと欲しかったと思った。

●80 年代に混み合ったスキー場で頑張ってスキーを楽しんでいた世代としては、逆に今もっとゆっくりスキーできるよという PR をしてもいいと思った。

●みんな「ゆったりしたい」という気持ち・欲求はあるので、温泉にも入れるしスキーも昔みたいに混まないで楽しめるぞと

というようなPRをすれば、スキー場にはまだまだ人が行くのではないかと思った。

●少し硬派な番組作りで、スキー産業の問題を取り上げていてビジネス番組のようであり気軽に見れる感じではなかったが、スキーの現状や問題などを取り上げていてよかった。

●ヨーロッパのスキー場関係者の「私たちは努力し続けている」というコメントは自然環境の上に胡坐をかいているだけではないという意味であり、これは国内のスキー産業へのメッセージとして使っているのかなと思った。

●スキーのこれからの100年というテーマで出てくるのは子供たちのスキー無料教室などの話ではなく、環境問題や教育問題であろうと思った。

●心理学的に言うとスキーは達成感が持ちやすいスポーツである。進歩がすごくわかりやすい。子供と一緒にスキーをやって感動したという父親のコメントもあり、世代を超えて一緒に楽しめるスポーツだと思った。雪やスキーには力があると思う。初心者にも優しく、社会的弱者にも優しくスキーができる仕組みができればいいと思った。

●スキー産業をビジネス問題として考えさせる産業テーマが一方であって、もう一方で楽しいスキーを子供ともう一回やりませんかというテーマがあり、見ていて子供を連れてスキー場に行ってみようかと思わせてくれる番組だと思った。

●外国人誘致が県内スキー場のこれからの考えるうえでのカギであること。子供にスキーに親しんでもらって将来のスキー人口に繋げることが如何に重要かということ。これら二つのテーマで番組のメッセージ性は明確になっていると思った。

- 集客数より質の向上に取り組むオーストリアのスキー産業の例が紹介されていた。スキー産業が「持続できる産業」としてあるために日本も転換する必要性があると思った。
- 県内の子供たちを地元のスキー場に呼び込むにあたり、何か問題はないのか。学校現場で子供たちにスキーをやらせるのに何か妨げになるものが有るのか無いのか。その辺を掘り下げて欲しかった。
- 番組を見ていてスキーに行きたくなった。スキー場の紹介があればよかったが、硬派の番組構成にはすぐわなかったのかもしれないと思った。
- チロル地方のスキー産業の実情や成功例は目指すべき方向やゴールを示唆するものとして具体的でわかりやすくよかった。
- 番組の視聴者ターゲットが分かりにくかった。県内のスキー産業関係者がターゲットであれば番組での県外や国外へのアプローチが不足している感じがした。
- 新潟県民をスキーに誘うのであれば、あそこまで硬く作らなくてもよかったのでは。旅行番組のようなポップな感じで作ってもよかったのではないかと思った。
- 交通網が発達してスキーも日帰り客が増えた。昔のスキーはスキー宿への泊まりや人との出会いが魅力的だったが、その魅力とチャンスが減ってしまった。
- 県内だけでなく新潟のスキー場の魅力を県外や国外に発信してほしいと思った。
- 番組を見て、最後にスキーに行きたくなるような仕掛けがもっと欲しかった。
- 「雪を楽しむ」ということをもっと考えて欲しいというメッ

セージを番組から感じた。

●日本のスキー産業関係者は勉強のためヨーロッパのスキー場やスキー産業をもっと見に行くべきだと思った。

●東南アジアの人には四季感が無い。「雪に感動してもらおうこと」を産業として発展させていってほしいと思った。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

1月……137件。

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成23年1月24日)から昨日(平成23年2月27日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回、第274回審議会では「佐野藤三郎物語～大地に夢を見た男の新潟未来構想～」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

8 今回の第275回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) インターネットのTeNYホームページに議事概要を掲載しました。

9 参考事項（委員への配布資料）

- ・ 1月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・ 1月の単発番組制作一覧
- ・ 民間放送新聞（1/23, 1/27, 2/3, 2/13号）
- ・ BPO 報告（No. 93号）

以上